



令和 8 年1月号

この号の内容

亘理消防署

1. 秋季火災予防運動
 2. 火災予防の注意点
 3. 救急車の疑問
-

山元分署

4. 住宅用火災警報器
5. 山岳救助訓練
6. 冬季入浴の注意点

亘理消防署だより

【広報誌】

秋季火災予防運動

火災予防運動は、火災の発生を未然に防ぎ、被害を最小限にするため、国民一人一人の防火・防災意識を高揚させることを目的とした啓発活動です。

亘理消防署では11月9日から11月15日までの期間、消防車両に「火災予防運動実施中」のマグネットを貼り付け、町内を火の用心と呼びかけながら巡回広報することで防火意識の向上を図りました。また、早朝には亘理町観光 PR 係長のわたりんと国道6号を通勤・通学する住民に向けて広報活動を実施しました。

街頭広報



11月9日には亘理町内の大型スーパーに協力をいただき、亘理消防署職員、亘理町女性防火クラブ員及び亘理町観光 PR 係長わたりんと一緒に店頭で街頭広報を実施し、来店された多くの方々に広報することができました！

店頭での広報活動



冬は火災の多発時期！

冬は空気が乾燥し、暖房器具などの火を使う機会が増えることから火災が起きやすい季節です！
日頃からの心掛けが大切です！



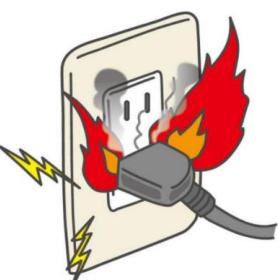
▼たばこ火災▼

- 火が完全に消えてからゴミ箱に捨てる
- 吸殻を灰皿の中に溜めない
- 寝たばこをしない



▼電気ストーブ火災▼

- ストーブで洗濯物を乾かさない
- ストーブの近くに燃える物を置かない
- 外出・就寝時は必ず消す



▼トラッキング火災▼

- 使っていないプラグは抜いておく
- コンセント周りは定期的に掃除する
- たこ足配線、束ねコードはしない

～令和7年度 全国統一防火標語～
「急ぐ日も 足止め火を止め 準備よし」

救急車がゆっくり走行しているのはなぜ？

「あれ？前の救急車ゆっくり走行していて遅いな～」



そう思ったことがある方もいると思います。

なぜでしょうか？実は救急車はとても揺れる乗り物です。

病院へ向かう最中に車内で処置をして向かう場合があります。その際に運転手は揺れを考慮した運転をし、ゆっくり走行または停車する場合があります。



また、傷病者の様態に合わせて運転を考慮する場合もあります。

例えば、脳卒中・骨折・嘔吐など傷病者に負担をなるべくかけないように安静に搬送することや、道路に段差がある場合等、道路状況に応じてゆっくり走行することがあります。

皆様には引き続きご理解ご協力をお願いします。

住宅用火災警報器 取り付けていますか？

平成 22 年 4 月 1 日からすべての住宅に住宅用火災警報器の設置が義務付けられています。

住宅用火災警報器があることで自分自身はもちろん、大切な家族の命や家などの貴重な財産を火災から守ります。また、火災を早期に発見することで、初期消火や通報が早まり、近隣への延焼被害も軽減します。

住宅火災において、住宅用火災警報器が未設置の住宅と設置の住宅を比較すると、火災発生時の死者数や被害が大きく異なります。

住宅用火災警報器は、命を守る大切な機器です。いざというときにきちんと作動するように、日頃からお手入れや点検をしましょう。また、設置から 10 年が過ぎている住宅用火災警報器は、機器本体を交換しましょう。

あぶくま消防本部 

住宅用火災警報器設置していますか？

設置義務です



こちらに設置してください！

- 寝室
- 台所
- 階段

*階段は寝室が 2 階以上にある場合

定期的に点検していますか？

半年に1回 定期点検 ピーピー



【点検方法】

テストボタンを押す又はヒモを引いて
正常に作動するか確認しましょう！

設置してから 10 年で交換の時期です

住宅用火災警報器がわが家と家族を守ります

山岳救助訓練

秋の紅葉シーズンをひかえ、山での遭難事故を想定して、山元町の深山で山岳救助訓練を実施しました。

文部科学省発表の令和6年山岳遭難件数は、

○ 発生件数 2,946件（前年対比－180件）

○ 遭難者 3,357人（前年対比－211人）

うち死者・行方不明者 300人（前年対比－35人）

負傷者 1,390人（前年対比－10人）

無事救助 1,667人（前年対比－166人）

過去10年間の山岳遭難発生状況をみると、令和2年から3年連続で増加していましたが、令和6年中は前年比減少しています。

遭難者の入山目的をみると、登山（ハイキング、スキー登山等）が79.7%と最も多く、次いで山菜・茸採りが8.8%を占めています。

また、態様別にみると、道迷いが30.4%と最も多く、次いで転倒が20.0%、滑落が17.2%を占めています。

訓練当日は、陽射しが心地よい日で多くの登山者が登山を楽しんでいましたが、山頂付近は肌寒く、また、道がぬかるんだ箇所や急な勾配で転倒の恐れがある箇所もあり、十分な注意が必要であると感じました。

登山を計画される方は、自分の体力や技術などを考慮しながら、休憩をこまめに取つて、無理のない登山を心掛け、深山の自然が織りなす四季折々の姿を今後も堪能できるよう心掛けましょう。





ヒートショックに注意！



ヒートショックとは？

暖かい部屋から寒い部屋への移動など、温度の急激な変化で血圧が上下に大きく変動することによって起こる症状のことを言います。急激な温度変化によって脳梗塞や心筋梗塞など、命にかかわる場合もあります。

起こりやすい状況は？

入浴の準備・入浴時

脱衣所や浴室は、寒い時期にヒートショックが起きやすい状況です。脱衣所や浴室は暖房設備がないことが多く、寒い状態で衣服を脱ぐと、寒さで血管が縮んでしまって血圧が上昇します。次に浴槽内の暖かい湯につかると、血管が一気に広がり、血圧は急激に低下します。この血圧の変化がヒートショックの原因です。

冬の部屋移動時

冬場にトイレに行こうとして廊下に移動するときや、家の中で部屋を移動するときも、ヒートショックのリスクが上昇します。暖かいリビングから寒い廊下への移動、部屋によっては温度が低いことがあります。温度差により、急激な血圧の変化が生じてヒートショックが起きやすくなります。

これら以外にも様々な要因があり、発生します。

起こりやすい人の特徴は？

- ・高齢者
- ・高血圧・糖尿病・動脈硬化など病気がある
- ・肥満、睡眠時無呼吸症候群、不整脈がある
- ・浴室や脱衣所、トイレが寒い
- ・熱い湯や一番風呂
- ・入浴の時間が長い

起こさないためには？

- ・脱衣所、浴室を温める
- ・お湯の温度は41度以下にする
- ・浴槽に入る前にかけ湯をする
- ・入浴時間を短くする

